



ya!

やあ!

URL:<http://tia21.or.jp/>

E-mail:tia@tia21.or.jp



▲英語を使ったゲームのルール説明をするマーク先生

県民外国語講座「はじめての英会話2」

昨年10月から12月まで実施した英会話講座「はじめての英会話」のご好評にお応えして、今年1月から3月まで「はじめての英会話2」を10回にわたり開催した。

講師のマーク・マコーマック氏は、母国イギリスで外国人向けの英会話教材開発に携わるなど英語指導のエキスパートであり、日本人に対する英語教授歴も10年以上のベテラン。授業では、時事性のあるトピックを選び即興でスキットを作ったり、ボードゲームやカードゲームを行ったりと、教科書から離れた内容も数多く盛り込まれた。初心者向けの講座ながら授業は英語ですすめられたが、人とコミュニケーションを取ることに重点が置かれていたためか、「楽しく英語を話す」という経験を重ねた受講生28名の英会話力は回を追うごとに向上した。

2011年3月号

No.114

Spring

- ◆トピックス 外国人就職支援セミナー第2回、日本語を教えよう!ステップ1
平成22年度海外技術研修員帰国、TIA相談員・通訳協力者研修会
- ◆やあ!クローズアップ 多文化共生の地域づくりセミナー
- ◆ようこそとちぎへ 平成22年度南米等県人会短期研修生
- ◆国際交流団体紹介 FJC日本語友の会
- ◆とちぎに暮らして… ルンナパー チャイサーウエンさん(タイ出身)

外国人就職支援セミナー第2回「介護現場で働くために」



▲介護施設でお風呂の入れ方を見学する参加者

介護現場で働くことに関心のある在県外国人を対象とした外国人就職支援セミナー第2回「介護現場で働くために」が、12月4日(土)、とちぎ国際交流センターで開催され、8か国47名が参加した。参加者は、介護制度、介護の仕事に関わる

資格、介護施設の様子などについて学んだり、NPO 法人地球人ネットワークが実施している「外国人向け2級ヘルパー養成講座」を受講している方々と講座内容についてディスカッションを行った。

また、セミナー参加者のうち7名が、宇都宮市の特別養護老人ホームマイホームきよはら(12/14・12/15)と小山市の特別養護老人ホームきぬの里(12/17)で実施した「介護施設見学会」に参加し、介護施設の様々な仕事内容を実際に学んだ。

日本語を教えよう！ステップ1

外国人に日本語を教えるボランティア活動に関心がある方を対象に、さくら市国際交流協会の協力のもと、日本語の教え方講座を1月20日から2月24日まで毎週木曜日(計6回)さくら市で実施した。講師は、日本語ボランティア活動に熱心に取り組まれているフリーアナウンサーの白井佳子氏。日本語を教えるには、普段、何気なく使っている日本語を整理し、わかりやすく伝えることが大切。地域の日本語教室は学校ではないので、多様な外国人のニーズに対応したり、同じ地域住民として助け合う感覚で臨むもので、教えて「あげる」のではないといった、日本語ボランティアの心構えも学んだ。最終日には、外国人4名に協力をお願いし、実物や絵を用いながら日本語を教える体験を行った。講座終了後は、これから日本語教室で教えてみたいという感想が多数あがった。



▲話し合いながら楽しい授業を作っていく

平成22年度海外技術研修員帰国



▲全ての研修を終え、帰国した研修員

栃木県が国際協力の一環として受け入れている2カ国(中国、ブラジル)から9月に来日していた平成22年度海外技術研修員3名が、1ヵ月半の日本語研修、3ヵ月半の専門技術研修を全て終了し、1月27日(木)にそれぞれの国へ

帰国した。帰国後は、日本で学んだ、各専門分野の技術を活かし、母国の発展に貢献するとともに、日本と母国の友好交流の架け橋となることが期待されている。

TIA 相談員・通訳協力者研修会

2月19日(土)、平成22年度第2回相談員・通訳協力者研修会がとちぎ国際交流センターで開催され、TIAの通訳者や相談員等20名が参加した。社会保険労務士の草村健一郎氏に、日本の社会保障制度や労働問題について分かりやすく講演をしていただいた。

講演後はケーススタディを行い、講師の指導の下で、外国人が抱える複雑な問題の解決法等を学んだ。参加者からは、母国での年金の受け取り方や不当解雇に関するさまざまな質問が飛び、大変有意義な研修会となった。



▲講師の草村氏の話にうなずく参加者たち

ようこそとちぎへ～welcome to Tochigi～

平成22年度南米等県人会短期研修生

ブラジル・サンパウロから高校生が来県

南米等県人会短期研修生受入事業が1月16日(日)～30日(日)の15日間実施され、ブラジル・サンパウロの在伯栃木県人会から2名の高校生、貝沢・ブレンダ・エイコさんと生野・アンドリュウ・ケンさん及び引率者の古田土みのりさんの計3名が来県した。



▲英語国際理解部員との交流会で和食作りに挑戦

日光や東京などを視察後、ブレンダさんとアンドリュウさんは、1月20日～25日の6日間、鹿沼東高校の生徒宅にホームステイしながら、体験通学を行った。ホストシスター・ブラザーのクラスで様々な授業を受けたり、

弓道部などのクラブ活動や英語国際理解部員との交流会にも参加し、多くの生徒と友好を深め、日本の高校生のライフスタイルを学ぶことができた。体験通学終了後は、日光湯元でスキーを体験したり、栃木県海外移住家族会の会員宅にホームステイをした。

帰国前日に開催した送別会には鹿沼東高校の先生・生徒他多くの方が参加し、お互い別れを惜しんだ。



▲鹿沼東高校の歓迎会で、左からアンドリュウのホストの小林さん、アンドリュウ、ブレンダ、古田土さん、ブレンダのホストの金子さん

やあ！クローズアップ

多文化共生の地域づくりセミナー 「モリス先生の多文化講座」

TIAは平成20年度に宇都宮市清原地区(県央地域)で「自治会」をテーマに、平成21年度には佐野市(県南地域)で「国際人権」をテーマに講演会を開催し、多文化共生社会づくりへの啓発普及を図ってきた。今年度は、大田原国際交流会、宇都宮市、佐野市国際交流協会と共催し、2月13日(日)「多文化共生の地域づくりセミナー」を大田原市で開催した。会場のユアアイ館は県内各地からの、70名を超える参加者

で賑わった。

今回のテーマは「モリス先生の多文化講座」。講師はオーストラリア出身で、宮城学院女子大学教授の J.F.モリス氏。



▲モリス教授

宮城県は全国に先駆け「多文化共生社会の形成の推進に関する条例」を制定した。モリス教授は外国人

県民懇話会座長をつとめ、条例制定から推進プラン策定まで係わった外国人委員で、外国人にとって生活するうえで多文化共生がいかに重要で難しい問題か、「日本人」と「外国人」の二分法など考え方の問題点や条例の今後の展望などを参加者と一緒に考えた。アトラクションを挟んで交流パーティーを開き、参加者同士、また、モリス教授との更なる情報交換と親睦を図った。



▲熱弁に耳を傾ける参加者たち

国際交流団体紹介 「FJC 日本語友の会」

外国人が日本に滞在することになって、一番不安に思うことは日本語が話せず、日本人とコミュニケーションがとれないことだと言われています。特に、子どもを学校に通わせる、日本で仕事に就く、近所の人たちと仲良くいきたい等々のケースで、日本語能力が必須になってきます。



FJC(日本語友の会)は1999年に発足し、一貫して外国人に日本語を教え続けてきました。火、木、土曜日の午前、TIA やその他の会場を借りて、それぞれ6~7グループに分け、レベル別に教えています。日

本に来たばかりで平仮名も読めない人から、日本語能力試験のN1を受けたという上級者まで、レベルに合った授業を展開しています。



日本語を教えるボランティアは現在20人。皆教えることに興味をもち、教える技術を絶えずブラッシュアップしているベテランぞろいです。ですから学習者からは大変喜ばれ、満足してもらっています。

FJCは毎月「ひらがなしんぶん」を発行し、TIA その他のラックに置いて

いますので、ぜひ読んでください。FJCの「F」はfriendshipを表し、教える側と教えられる側といった上下の関係でなく、もっと友達と話し合う感覚で、同じ目線で楽しく学べる雰囲気になりたいと考えています。



言葉に困っている外国人で勉強したいと思っている人は、ここに集まっている人の他にもたくさんいるはず。私たちのこの活動をもっと広く多くの外国人に知ってもらえるようこれからも努力するつもりです。

(写真はすべてとちぎ国際交流センターでの日本語学習の風景)

文：FJC 日本語友の会 代表 吉田 勉

とちぎに暮らして… Living In Tochigi



ルンナパー チャイサーウェン
さん（タイ出身・宇都宮市在住）
2008年タイの大学卒業後、宇都宮市内の専門学校に留学するため来日。現在、デックタイグループで活躍中。

—はじめまして。日本語は大学で勉強されたのですか？

日本語は、タイで半年くらい塾に通いながら、勉強しましたが、大学での専門は国際貿易でしたので、英語がメインで日本語は勉強しませんでした。タイには日本の企業も多く、日本語を学び、日本の会社で仕事をしている人もいますので、自分もできたら日本で日本語を学んで、日本の企業で働きたいと思い、宇都宮市にある専門学校で2年間学びました。去年の3月に卒業しました。

—そうなんですね。学生時代に生活されていたのでもう慣れているかと思いますが、栃木県の印象はいかがでしょう？

実は、宇都宮に来た理由も父が宇都宮に住んでいるということもあって来たのですが、冬は寒いのでまだ慣れませんが、とても住みやすいところだと思います。また、栃木県の方は親切だと思います。

—日本に来て、苦勞したこと、びっくりしたことはありますか？
苦勞したことは日本の薬ですね。日本の薬は速効性がないような感じがします。タイの薬だったらすぐに風邪も治るのですが、日本の薬を飲んででもすぐには治らなくて、病院に行かないとだめなので、大変困りました。驚いたことは、雪です。タイでは雪は降らないので、初めてみた時は本当にびっくりして、タイに住んでいる祖父母に電話で実況中継したほどでした。

—これから、日本でぜひやってみたいことは何ですか？

現在、デックタイグループや在日タイ人ネットワーク（TNJ）等の国際交流団体でいろいろなボランティア活動を手伝っています。私は将来、通訳や翻訳の仕事をしたと思っているので、ぜひ日本で



▲ボランティア活動をするルンナパーさん

その方面の技術を磨いていけたらいいなと思っています。それから、「OMPA」というタイポップバンドでボーカルもしています。まだ、K-POPのように流行しているわけではないですが、今後、いろいろなイベントで演奏して、タイポップをPRできたらよいと考えています。

JICA 情報局

JICA ボランティア春募集
【募集期間：4/1～5/16】

これまで皆さんが日本で経験してきたことを、海外に舞台を移して JICA ボランティアとして生かしてみませんか？

開発途上国の人びとのために、自分の持っている技術や知識を活かしてみたい！ そうした意欲を持っている方を派遣するのが JICA のボランティア事業です。

私たちができることで、世界の人たちが明日への希望をもてたら。それはきっと、あなたの心も満たす素晴らしい経験になるはずです。

～行ってみよう！聞いてみよう～
『募集説明会 & 体験談 in とちぎ』
入場無料！予約不要！

【日時】4月16日（土）
【会場】とちぎ国際交流センター



青年海外協力隊 & 日系社会青年ボランティア (20歳～39歳)	シニア海外ボランティア & 日系社会シニアボランティア (40歳～69歳)
14:00～16:00	10:30～12:30

【問合せ】TIA 内 JICA 栃木デスク 028-621-0777

公益財団法人への移行

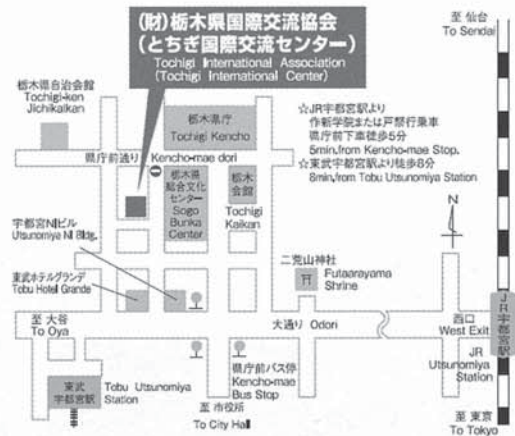
財団法人栃木県国際交流協会は、国の公益法人制度改革に基づき、去る3月3日に栃木県公益認定等審議会の答申を得て、来る4月1日から、「公益財団法人栃木県国際交流協会」に改称して運営いたします。

TIA バナー広告募集中！

バナー広告を掲載してみませんか？詳しくは下記をクリック！

<http://tia21.or.jp/banner.html>

TIA ご案内図



編集・発行 財団法人栃木県国際交流協会
住所 〒320-0033 宇都宮市本町9-14 とちぎ国際交流センター内
TEL 028-621-0777 (代表) 028-627-3399 (相談専用)
FAX 028-621-0951
業務時間 8:30～17:15
休館日 日曜・月曜・祝祭日及び12月29日から1月3日